

「あすへひとこと」(邑楽町老人クラブ連合会・あすへひとこと編集委員会)は、邑楽町在住の
お年寄りたちの貴重な体験談を、邑楽町あすへひとこと編集委員会が編集・発行したものです。

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談(第十六回)

あすへひとこと



関東大震災の思い出

大正十二年九月一日正午直前、私は館林のさる商店に肥料を買うため、父親と荷車を引いて行った。その帰り道で、あの大地震に遭ったのだった。

暑い日なので途中、高根のまんじゅう屋で一休みし、県道前橋古河線(現在は国道百二十二号)の熱い砂利道を、荷車をゴロゴロ引いて、鶉の上(昭和六十一年当時の須江薬品)辺りまで来た。

その時、何か地響きとともに、ものすごい震動が起こり、近くの立木がざわざわと音を立てていた。道路の側溝の水がポチャンポチャンと路肩に飛び散って、堀の水はほとんどなくなりました。しかし、私は荷車を引いていたせいか、あんまりよろよろしないで歩

くことができた。随分大きな地震だなあと思ったが、そのまま家に帰った。

午後の何時ごろだったか、県道を通る人が、「東京は大地震で大騒動だ。電車も自動車も乗客が鈴なりで、屋根の上に乗って乗っけていて大混乱だ」と、こんな話をするので私たちはなんだか不安になってしまった。

そのうちに、いつの間にか夕方になった。疲れたような足どりで県道を通る人が、「東京では二十か所も火災が起きて、だんだん燃え



ガレキの山(岩手県釜石市)

広がっている」と言う。これを聞いた人々が、「宮城(天皇の居所)の二重橋が火事だ」と早合点して、「それは大変なことだ。東京はどうなるだろう」と、みんなが心配しだした。日が暮れるにつれて、南の空が真っ赤な炎で明るく見えたので、東京の火災は本当だということになった。東京に親戚や知人のいる人は、どうしたらよいか分からなかった。

そのうちに、だれ言うともなく、「朝鮮人が井戸に毒物を投入して、日本人を殺害する」といううわさが流れ始めた。そして、「その朝鮮人を見つかつて殺されてしまった」というような、流言飛語が盛んに飛び交って、夜の一人歩きなど危なくてできないような状態になってしまった。

こんな混乱した状態なので、自分たちの地区は自分たちの手で守ろうと自警団のような組織を作り、変なやつが地区へ入り込まないよう警備態勢を整えた。中には、家宝にしている日本刀を持ち出して、警戒に当たるといような騒ぎだった。



東日本大震災の津波被害のようす(岩手県釜石市) 関東大震災でも神奈川県沿岸部は津波に襲われた

このような大混乱も、それぞれの努力によって、間もなく平静を取り戻した。しかし、この大地震で直接の被害を受けて死傷した者以外に、社会が無秩序になったために起きた不当な集団暴力などによる犠牲者が、案外多かったことを忘れてはならないと思う。

高齢者の語り第一集
「あすへひとこと(昭和六一年二月一日発行)」より
「関東大震災の思い出」
故・小島寛一さん
(千原田向地・九区)

ひとりごと From editors

▼今年の夏を締めくくる最大イベント「おうら祭り」も大盛況のうちに幕を閉じました。勇壮な本神輿、華麗な芸能、ハイレベルなダンスコンテストなど内容盛りだくさんでした。夜空を彩る8,000発の打ち上げ花火も、お祭りに華を添えていたと思います。▼お祭りでは、町の記録ボランティアの皆さんに、写真撮影の協力をさせていただきました。広報担当者では、撮りきれない場面まで撮影していただき、本当に助かりました。そして、町民の皆さんには快く取材にご協力いただき、ありがとうございました。▼暦のうえでは9月は初秋。まだまだ残暑厳しい日が続きますが、皆さんもお体には十分気をつけてください。(小)

まの風景



水面に映る
白い野鳥
(藤川地区)

Photo 赤坂光一(写真ボランティア)



広報おうら

ORA TOWN Public Relations



平成24年9月号 No.552

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎0276-88-5111 (代表)

☎0276-47-5007 (企画課直通)

☎0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

